

## コールタール留分からのインドール, キノリン, イソキノリン\*

田中 信\*<sup>2</sup> 堀田 次男\*<sup>3</sup> 佐藤 信之\*<sup>3</sup> 松浦 明德\*<sup>4</sup> 飯塚 安伸\*<sup>5</sup> 笠原 英俊\*<sup>6</sup>

### Indole, Quinoline, and Isoquinoline Separated from Coal Tar Fraction

Shin Tanaka, Tsugio Horita, Nobuyuki Sato, Akinori Matsuura,  
Yasunobu Iizuka, Hidetoshi Kasahara

れているインドール, キノリン, イソキノリンについて, その製造  
工程<sup>1)</sup>, 用途および品質について紹介する。

1 総 言

一層の事業拡大を図るために, コールタール油中の有用成分の分離

回収および精製による製品の増産している。特に、インドール、キノリン、イソキノリンの抽出は、Dieckmann縮合反応の副産物として抽出される。

油が含まれるが、インドールは次工程で重合塩に変換され、ろ過により中性油から分離される。重合塩は中和後、蒸留することにより解重合し、インドール留分が得られる。それをさらに再結晶することにより、製品インドールが得られる。

### 3 用 途

インドール、キノリン、イソキノリンの用途例を以下に示す。

水分： 0.3%以下

ピリジン類 (JIS K-2348) の「分留キノリン」に適合

荷姿： 200ℓ鉄ドラム NET 200 kg, タンクローリー

6 000~10 000 kg

#### (3) イソキノリン

純度： 97.0%以上

水分： 0.3%以下

ピリジン類 (JIS K-2348) の「分留キノリン」に適合

ジャスミン系香料の原料

アミノ酸 (トリプトファン) 合成原料

医薬品、農業などの合成原料

#### (2) キノリン

6 000~10 000 kg

### 5 結 言